

|                 |  |
|-----------------|--|
| 行事予定            | (2008年)  |
| 1月25日(金)        | 第1回常任・全国幹事会  |
| 3月14日(金)        | 第2回常任幹事会   |
| 4月19日(土)        | 第70回教育セミナー(慶応義塾大学)「骨髄検査・一般検査・生化学・免疫電気泳動の実技講習」          |
| 5月11日(日)        | 第71回教育セミナー(昭和大学)「精度管理・検査室management」                   |
| 5月24日(土)        | 第72回教育セミナー(東海大学)「輸血・微生物検査の実技講習」                        |
| 5月25日(日)        | 第5回 GLM 教育セミナー(都市センターホテル)                              |
| 5月30日(金)～31日(土) | 第18回日本臨床検査専門医会春季大会(神戸ポートピアホテル)および第3回常任・第2回全国幹事会・第31回総会 |
| 7月18日(金)        | 第26回振興会セミナー(東京ガーデンパレス)                                 |
| 9月5日(金)         | 第4回常任幹事会   |
| 11月27日(木)       | 第5回常任・第3回全国幹事会・第32回総会・講演会(名古屋国際会議場)                    |
| 12月19日(金)       | 第6回常任幹事会   |

## 巻頭言

日本臨床検査専門医会  
教育研修委員長 宮地 勇人

### 臨床検査室マネージメント教育について

臨床検査専門医にとって、臨床検査室マネージメントにおける役割およびマネージメント教育は、近年の医療を取り巻く環境の変貌と臨床検査室への影響により、その重要性が増大しています。その教育研修の環境整備が少しずつ進められています。

各学会認定の専門医制度を評価・審査する日本専門医認定機構(専門医認定協議会)では、専門医制度の整備を目的として、2006年5月専門医制度整備指針を策定しました。そこでは、各学会の認定審査関連整備内容として、カリキュラムに研修方略の明示が求められ、専門医の「生涯教育の習慣づけ」が盛り込まれています。同機構の専門医制度評価委員会では、国民・社会から理解される専門医樹立と制度充実のため各加盟学会別にヒアリングを実施しています。日本臨床検査医学会の臨床検査専門医制度に関するヒアリングでは「講習会、講演、シンポジウム受講などに関し、医師像に謳った広範囲の研修を可及的にカバーし、また、医療倫理、医療安全などの部分は必須とする。」が指摘されています。日本臨床検査医学会の教育委員会では、この度、国民・社会から理解される専門医の医師像の明文化を行い、卒業教育カリキュラム(案)を作成しました。カリキュラム(案)には、検査室マネージメントに関する内容が盛り込まれました。その内訳は、I. 組織とリーダーシップに関するスキル、II. 財務管理能力、III. 統制に対応できる能力、IV. 質保証、精度管理、検査前・検査後管理に分けられています。

このような状況において、日本臨床検査専門医会の教育研修委員会の活動は、従来の教育研修セミナー開催に加え、セミナーや教育研修のあり方を検討しています。今後の教育研修セミナーは、臨床検査を取り巻く環境の変貌に対応した生涯教育の機能を強化していく必要があります。セミナーの内容として、臨床検査医として活動する上で最低限必要かつ適切な臨床検査のマネージメントに関する基礎的な知識・技能を身につける手法を教授する必要があります。

日本臨床検査専門医会では、臨床検査室のマネージメントを効果的かつ戦略的に行う手法を学ぶ機会を提供する目的で、GLM(Good Laboratory Management)教育セミナー(またはワークショップ)を毎年開催しています。経営環境の厳しい今日、病院組織におけるビジョンを具現化するための戦略を明らかとし、具体的な行動計画を立てることを可能とする手法に、バランスト・スコアカード(Balanced Scorecard: BSC)があります。今年のGLM教育セミナーでも、テーマ「臨床検査室運営におけるバランスト・スコアカード(BSC)の利用」を企画しています。5月都市センターホテルにて開催予定です。今年から始まる臨床検査科の診療科標榜においては、医療機関における臨床検査室の真価が問われます。臨床検査室の様々な機能向上やサービス充実にBSCを応用したいとお考えの先生には是非セミナー受講をお勧めいたします。教育研修委員会の活動報告を兼ねて巻頭言とさせていただきます。

### 【目次】

- p.1 巻頭言
- p.2 事務局だより、会員動向、総会報告、講演会報告、平成20年度行事予定のお知らせ、平成20年度予算案
- p.3 平成20・21年度新幹事、監事のお知らせ、第18回日本臨床検査専門医会春季大会のお知らせ、平成19年度第五回常任・第三回全国幹事会議事録
- p.4 会員の声；ペーパー検査医の4つの告白
- p.5 「病理診断科」と「臨床検査科」の標榜科実現に当たって、秋田のリンケン
- p.6 検査専門医の今までとこれから、編集後記



冬の草花(具満タンより)

JACLaP NEWS 編集室 大谷慎一(編集主幹)  
〒228-8555 相模原市北里 1-15-1 北里大学医学部臨床検査診断学医局内  
TEL/FAX: 042-778-9519  
E-mail: [ohitani@med.kitasato-u.ac.jp](mailto:ohitani@med.kitasato-u.ac.jp)

事務局日より

【事務局からのお知らせ】

《会員動向》

2007年12月22日現在数690名、専門医537名

《新入会員》(敬称略)

森吉 美穂 埼玉医科大学 中央検査部

中野 晃伸 島根大学医学部 器病理科

《所属・その他変更》(敬称略)

千葉 貴人：旧 秋田大学医学部 臨床検査医学講座

新 九州大学病院 皮膚科 学術研究員

木下 喜光：旧 大阪市立北市民病院 内科

新 大阪市立大学医学部附属病院 血液内科

山本 洋介：旧 徳島県立中央病院 中央検査部

新 香川県立がん検診センター 検査科 部長

車谷 宏 :旧 石川県立中央病院 中央検査部

新 石川県立中央病院 病理科

《退会会員》(敬称略)

白井 敏明 長崎県立佐世保看護学校(12月17日)

【総会報告】

第30回(平成19年度第2回)総会が第54回日本臨床検査医学会学術集會に合わせて大阪で開催されました。

会場：大阪国際会議場12階 特別会議場

日時：平成19年11月22日 15時50分～16時15分

報告事項

- 平成19年度中間会計が佐藤庶務・会計幹事から報告された。
- 各委員会の活動状況が佐藤庶務・会計幹事から以下の通り報告された。

情報・出版委員会：LabCPの編集主幹を石和久先生から近藤成美先生に交替する。

教育研修委員会：日本臨床検査医学会に対し同学会が策定した臨床検査専門医卒後研修カリキュラムについて意見を具申した。

資格審査・会則改定委員会：特になし。

渉外委員会：特になし。

未来ビジョン委員会：今年度で活動を終了する。

保険点数委員会：内保連に提案書を提出した。

審議事項

- 平成20年度予算案(別表)が承認されました。
- 平成20年度行事予定(別項参照)が承認されました。
- 平成20・21年度会長・監事選挙の結果を受け、会長に渡辺清明先生、監事に水口國雄先生と高木康先生が選出されたことが承認されました。
- 第19回日本臨床検査専門医会春季大会の大会長を富山大学医学部の北島勲教授にお願いすることが承認されました。

【講演会報告】

第30回日本臨床検査専門医会総会に引き続き、同じ会場で講演会が開催されました。森三樹雄会長の司会により、神戸大学大学院医学系研究科感染制御学分野 准教授の白川利朗先生を演者に「感染症学分野における分子免疫および分子診断の進歩について」というテーマでの講演がありました。

【平成20年度行事予定のお知らせ】

平成20年度、日本臨床検査専門医会の行事予定をお知らせいたします。

開催日時、場所の変更が生じる場合があります。変更があり次第JACLaP WIRE、JACLaP NEWSでお知らせします。その都度ご確認ください。

平成20年

1月25日 第一回常任・全国幹事会

開催会場：日本臨床検査医学会事務所

3月14日 第二回常任幹事会

開催会場：日本臨床検査医学会事務所

4月19日 第70回 教育セミナー

「血液学(骨髄像)・生化学・一般検査の実技ガイダンス」

開催会場：慶應義塾大学 医学部

5月11日 第71回 教育セミナー

「精度管理・検査室 management」

開催会場：昭和大学 医学部

5月24日 第72回 教育セミナー

「輸血・微生物検査の実技ガイダンス」

開催会場：東海大学 医学部

5月25日 第4回 GLM 教育セミナー

開催会場：都市センターホテル(東京)

5月30～31日 第18回日本臨床検査専門医会春季大会

開催会場：神戸ポートピアホテル、臨床研修情報センター(TRI)

大会長：神戸大学大学院医学系研究科 熊谷俊一 教授

5月31日 第三回常任・第二回全国幹事会

第31回日本臨床検査専門医会総会

開催会場：臨床研修情報センター(TRI)

7月18日 第26回日本臨床検査専門医会振興会セミナー

開催会場：東京ガーデンパレス(東京)

9月5日 第四回常任幹事会

開催会場：日本臨床検査医学会事務所

11月27日 第五回常任・第三回全国幹事会

第32回日本臨床検査専門医会総会

日本臨床検査専門医会講演会

開催会場：名古屋国際会議場

12月19日 第六回常任幹事会

開催会場：日本臨床検査医学会事務所

日本臨床検査専門医会 平成20年度予算案

|             |            | 項目          | 平成19年度予算   | 平成20年度予算案  |
|-------------|------------|-------------|------------|------------|
| 入           | 会費<br>入金   | 会員会費        | 5,700,000  | 5,700,000  |
|             |            | 振興会会費       | 4,800,000  | 4,800,000  |
|             |            | 雑収入         | 150,000    | 150,000    |
|             |            | 小計①         | 10,650,000 | 10,650,000 |
|             | その他<br>入金  | 広告収入        | 800,000    | 800,000    |
|             |            | 教育セミナー参加費   | 1,000,000  | 800,000    |
|             |            | 利息・雑収入      | 2,500      | 2,500      |
|             |            | 前年度繰越金      | 15,000,000 | 15,000,000 |
|             |            | 小計②         | 16,802,500 | 16,602,500 |
|             |            | A. 収入合計 ①+② |            | 27,452,500 |
| 支           | 庶務<br>経費   | 事務局雑費       | 300,000    | 250,000    |
|             |            | 通信費(事務局)    | 300,000    | 250,000    |
|             |            | 人件費         | 2,000,000  | 2,200,000  |
|             |            | FAX・電話使用料   | 60,000     | 60,000     |
|             |            | 会員登録        | 15,000     | 15,000     |
|             |            | 事務所賃貸料      | 950,000    | 1,050,000  |
|             |            | 設備費         | 200,000    | 200,000    |
|             |            | 小計①         | 3,825,000  | 4,025,000  |
|             | 必要<br>経費   | 印刷代         | 2,200,000  | 2,200,000  |
|             |            | 要覧印刷代       | 400,000    | 400,000    |
|             |            | 通信費         | 1,500,000  | 1,200,000  |
|             |            | 春季大会補助金     | 500,000    | 500,000    |
|             |            | 振興会補助金      | 700,000    | 700,000    |
|             |            | GLM補助金      | 700,000    | 750,000    |
|             |            | 教育セミナー補助    | 1,700,000  | 1,500,000  |
|             |            | 会議費         | 1,000,000  | 1,000,000  |
| 交通費         | 100,000    | 100,000     |            |            |
| 原稿料         | 200,000    | 200,000     |            |            |
| HP維持費       | 300,000    | 300,000     |            |            |
| JCCLS会費     | 50,000     | 50,000      |            |            |
| WASPALM会費   | 60,000     | 60,000      |            |            |
| 臨床検査振興協議会   | 300,000    | 300,000     |            |            |
| 内保連会費       | 100,000    | 100,000     |            |            |
| 予備費         | 200,000    | 200,000     |            |            |
| 小計②         | 10,010,000 | 9,560,000   |            |            |
| B. 支出合計 ①+② |            | 13,835,000  | 13,585,000 |            |
| 収支決算 A-B    |            | 13,617,500  | 13,667,500 |            |
| 次年度繰越金      |            | 13,617,500  | 13,667,500 |            |

## 【平成 20・21 年度新幹事、監事のお知らせ】

平成 20・21 年度の新役員をお知らせいたします(アンダーラインは新任の役員)。

会 長：渡辺清明(保険点数委員長兼任)  
副会長：熊谷俊一、渡辺 卓  
常任幹事  
庶務・会計幹事：佐藤尚武  
情報・出版委員長：矢冨 裕  
教育研修委員長：宮地勇人  
資格審査・会則改訂委員長：土屋達行  
渉外委員長：佐守友博  
臨床検査専門医在り方委員長：村田 満  
監 事：高木 康、水口國雄  
全国幹事：市原 清、伊藤喜久、今福裕司、大谷慎一、康 東天、木村 聡、熊坂一成、小出典男、犀川哲典、三家登喜夫、館田一博、橋本琢磨、深津俊明、藤田直久、前川真人、松野一彦、満田年宏、宮澤幸久、保嶋 実、山田俊幸

## 【第 18 回日本臨床検査専門医会春季大会のお知らせ】

第 18 回日本臨床検査専門医会春季大会が下記の日程で神戸ポートピアホテル、TRI にて開催されます。

開催予定会場：神戸ポートピアホテル、臨床研修情報センター (TRI)

開催予定日時：平成 20 年 5 月 30 日～5 月 31 日

大会長：熊谷俊一 教授(神戸大学大学院医学系研究科生体情報医学講座臨床病態・免疫学分野)

プログラム(案)：特別講演「ヘリコバクター・ピロリ感染の臨床の位置づけ」(仮題)、

シンポジウム「検査を生かす」；院内感染アップデート、  
高脂血症・動脈硬化の有望な検査、慢性肝炎・肝臓の検査、血栓症・凝固異常症の検査(いずれも仮題)、  
パネルディスカッション「臨床検査部標榜科のあり方」(仮題)、等

## 【会費納入について】

昨年度会費の振り込みをしていない先生は、至急お振込ください。  
なお、振り込み用紙をなくされた先生は、

年会費 1 万円

郵便振り込み口座：00100-3-20509

日本臨床検査専門医会事務局

までお願いいたします。また、ご自身の振り込み状況が不明な先生は、事務局まで E-mail または FAX でお問い合わせください。

## 【住所変更・所属変更に伴う事務局への通知について】

最近、住所・所属の変更にもなっており定期刊行物、JACLAP WIRE など電子メールの連絡が着かなくなる会員が多くなっています。

勤務先、住所および E-mail address の変更がありましたら必ず事務局までお知らせください。

勤務先、住所の変更は、本年度会費の振り込み用紙に記載するか、できればホームページから会員登録票をダウンロードしてそれに記載し FAX あるいは E-mail でお送りください。

## 【平成 19 年度第五回常任・第三回全国幹事会議事録】

開催日時：平成 19 年 11 月 22 日(木)、12 時～13 時 30 分

場 所：リーガロイヤルホテル(大阪) 羽衣の間

参加幹事：森三樹雄、熊谷俊一、水口國雄、池田 斉、石 和久、メ谷直人、宮地勇人、市原清志、今福裕司、大谷慎一、尾崎由基男、小野順子、小出典男、犀川哲典、諏訪部章、深津俊明、藤田直久、松野一彦、渡辺清明、佐藤尚武

参加監事：玉井誠一、濱崎直孝

特別参加：北島 勲

(出席 23 名)

欠 席：橋詰直孝、一山 智、岡部英俊、北村 聖、  
館田一博、橋本琢磨、村上正巳、保嶋 実、  
渡辺伸一郎 (欠席 9 名)

(敬称略)

議事録署名人に、尾崎由基男幹事、大谷慎一幹事を指名して議事に入った。

## 報告事項

1. 平成 19 年度中間会計報告(資料 1)(佐藤庶務・会計監事)

10 月末までの中間決算状況を資料 1 として提示し、報告を行った。  
収入部門では会費の納入率が約 95%、振興会費が 90%程度である。  
報告時点で広告収入が少ないが、全体としては 100%を超えている。

支出部門では予算の 70～90%を支出しており、平均すると 80%程度の執行率である。今年度はノート PC とプロジェクトを購入したため、設備費は既に 150%の支出となっている。GLM セミナーも会場費の値上がり等があり、予算オーバーとなった。予備費の使用額が予算を超過したのは、今年が会長・監事の選挙年で選挙関連の支出に当てたためである。事務職員の事務量も増加しており、人件費も最終的には 100%を超える見込みである。

2. 各種委員会報告

①未来ビジョン検討委員会(メ谷委員長)

旭川で開催された春季大会で各ワーキンググループの活動報告を行った。その要旨は来年発行される LabCP に掲載の予定である。当委員会は今年度で活動を終了する予定で、明後日開催される委員会これを最終確認する。

②資格審査・会則改定委員会(佐藤庶務幹事；橋詰委員長欠席のため)

報告事項は特になしとのこと。

③情報・出版委員会(石委員長)

LabCP の発行がやや遅れているが、JACLAP NEWS と WIRE は順調に発行されている。LabCP の編集主幹は次号から近藤成美委員にお願いする。

④教育研修委員会(別途資料 1)(宮地委員長)

日本臨床検査医学会が策定した臨床検査専門医 卒後研修カリキュラムに対する意見を委員から収集し、これを別途資料 1 のようにまとめて検査医学会に具申した。来年度以降の教育セミナーについては明後日開催される委員会で討議・決定する予定であるが、今後の基本方針について審議事項で討議をお願いしたい。

⑤渉外委員会(池田委員長)

本年度の振興会セミナーは 7 月 20 日に東京ガーデンパレスで開催され、無事終了した。

⑥保険点数委員会(水口委員長)

当会から今年初めて内保連に提案書を提出した。また臨床検査振興協議会を通じて活動を行っているが、これについては後ほど別途報告する。

3. その他

①第 18 回日本臨床検査専門医会春季大会について(熊谷副会長)

明年 5 月 30 日・31 日の日程で春季大会を開催する。会場は 30 日が神戸ポートピアホテル、31 日は臨床研修情報センター (TRI) を予定している。具体的なプログラムはこれから検討するが、時に希望があれば伺いたい。

②内保連報告(森会長)

8 月下旬に要望書に対する厚生労働省のヒアリングがあり、私と佐藤幹事が出席して説明を行った。また内保連から提案書一覧が発行されたので、幹事と保険点数委員会の委員に配布した。10 月に例会が開催され、厚生労働省保険局の宇都宮企画官から平成 20 年度の診療報酬の方向性について講演があった。

③臨床検査振興協議会報告(資料 2)(佐藤庶務・会計監事)

今年 3 回開催された厚生労働省との勉強会の内容をふまえ、8 月中旬に医療政策委員会から厚生労働省の担当者に対して「臨床検査に関する提言」を行った。

④臨床検査専門医・管理医審議会報告(資料 2)(佐藤庶務・会計監事)

審議会の議事内容を資料 2 に提示して説明した。臨床検査管理医制度過渡的措置の 1 年延長が決まったこと、日本臨床検査医学会が日本専門医認定機構制度評価委員会に提出した資料の「臨床検査専門医」医師像から超音波検査の文言を除くことになったことなど

が報告された。

⑤第6回常任幹事会に関して(佐藤庶務・会計監事)

今回は現在の役員による最後の幹事会となるが、次期執行部への引き継ぎ事項もあるので、渡辺清明次期会長に出席を要請した。ただしスケジュールの関係で出欠に関しては未定とのことである。

⑥その他

特になし。

審議事項

1. 平成20年度予算について(資料3)(佐藤庶務・会計監事)

報告事項1で示した予算の執行状況をもとに平成20年度の予算案を作成したので、これを資料3に示す。収入部門は平成19年度とほぼ同じだが、教育セミナーの回数が減る可能性があるため、参加者減を見込んで教育セミナー参加費を減額した。

支出部門では、人件費、事務所賃貸料、GLMセミナー補助金を増額した。人件費とGLMセミナーの予算オーバーについては報告事項で説明した。事務所賃貸料は来年が契約更新の年であるため、保険料の支払いが発生するためである。教育セミナー補助は前記の理由で減額した。他に今年の予算執行率の低い項目を幾つか減額した。再来年度への繰越金は今年度とほぼ同程度の見通しである。

・予算案は承認された。

2. 平成20年度活動予定について(資料4)(佐藤庶務・会計監事)

現在決定している平成20年度の年間行事予定を資料4に示す。教育セミナーは教育研修委員会の決定待ちであり、現在は未定である。第2、第4、第6回の常任幹事会については、渡辺次期会長のスケジュール確認待ちである。

・第1回常任・全国幹事会が12時からの開催となっている。以前の話し合いで、地方の幹事が出席しやすい15時からの開催を原則とすることになっていたが、どうしてか。(諏訪部幹事)

・渡辺次期会長の都合によるものである。(佐藤幹事)

3. 平成20・21年度 会長および監事について(佐藤庶務・会計監事)

平成20・21年度 会長および監事選挙の結果、会長に渡辺清明先生、監事に水口國雄先生と高木康先生が選出されたことは、既に当会のホームページやJACLap NEWS および WIRE で会員にはお知らせしてある。また8月末に開催された常任幹事会でも承認されているが、本日の総会での審議に先立ち、全国幹事の承認を得たいので、審議をお願いした。

・特に異議はなく、選挙結果の通り承認された。

4. 第19回日本臨床検査専門医会春季大会について(森会長)

前回の常任幹事会で、第19回春季大会の大会長選出については私に一任されていた。富山大学医学部の北島勲教授に打診したところ、内諾を得た。第19回春季大会の大会長を北島先生にお願いする件について審議願った。

・第19回春季大会の大会長を北島勲教授にお願いする件は承認された。

・森会長の要請により本幹事会に特別参加された北島勲教授から受諾の挨拶があった。平成21年5月の開催を考えている旨報告があった。

5. その他

①WASPaLMについて(森会長)

2009年3月13日～15日、オーストラリアのシドニーで開催予定の第25回 WASPaLM のパンフレットが資料として提示され、多くの会員の参加を望む旨報告があった。

②来年度以降の教育セミナーについて(別途資料2)(宮地委員長)

今後の教育セミナーのあり方については、昨年来何度か議論してきた。日本専門医認定機構の専門医制度整備指針では継続的な生涯教育の重要性が謳われており、特に医療倫理と医療安全についての研修は必須とされている。一方日本臨床検査医学会では臨床検査専門医の卒業研修カリキュラム(案)を作成し、今後はこれを基本軸として専門医の教育研修や認定試験が実施されることになると予想される。

これらをふまえ当会の教育セミナーについて基本方針(案)を別途資料2の通り作成した。具体的な事項は明後日の教育研修委員会で議論するが、それに先だつてこの方針(案)について審議願った。

・提示された方針(案)は6項目からなるので、各項目について時間の許す限り議論することにする。まず第一項の当会の教育セミナーは内容的に、①専門医としての生涯教育、と②専門医認定試験受

験ガイドランス、の二つに分け、両者を実施していくこと、についてはどうか。(森会長)

・特に異議は出されず、承認された。

・次に第二項の前記②のセミナーは認定試験で求められる実技内容とレベルのガイドランスを目的とし、実際の実技トレーニングは各施設での習得を基本とする、についてはどうか。(森会長)

・特に異議は出されず、承認された。

・第三項の自施設での研修が困難な受験予定者に対しては、研修環境を提供すべく研修ネットワークを構築する、についてはどうか。これは前記の第二項を補完する内容になっている。(森会長)

・本項に関しては多数の意見が表明され、活発な議論が行われた。結論としてはおおよそ下記の2点に集約された。

\*日本臨床検査医学会の研修認定施設を核とする研修ネットワークを構築する。具体的には日本臨床検査医学会で各研修認定施設に対してアンケートを実施し、研修の可能な科目と受け入れ可能な人数を明らかにしてもらう。これを利用して基本的には地域ごとに研修を実施する。

\*日本臨床検査専門医会でも幹事のいる施設などを中心に調査を行い、独自の研修ネットワーク構築を目指す。

・第四項の生涯教育機能(第一項①)を強化する、についてはどうか。(森会長)

・生涯教育セミナーの内容に生理検査を入れるのは如何なものか。先ほどの専門医の医師像からも超音波検査が削除されている。(玉井監事)

・生涯教育セミナーは認定試験受験ガイドランス セミナーと異なり、臨床検査専門医として必須の内容だけを扱うわけではない。専門医としての技量を充実させていくためには病理検査や生理検査など、選択科目的な内容についても取り上げていく必要がある。(宮地委員長)

・第四項は承認された。

・第五項の専門医資格更新要件として当会主催の教育セミナー受講を含むクレジット制の導入を日本臨床検査医学会に要望する、についてはどうか。(森会長)

・第五項は承認された。

・第六項の実技形式のセミナーをデモ形式に変更するなどして教育セミナー担当校の負担を軽減する、についてはどうか。(森会長)

・数名の幹事から意見表明があったが、基本的な方向性として第六項は承認された。具体的な作業については教育研修委員会が検討することになった。またDVDなど教育用のデモ教材作成のために費用が必要な場合は、専門医会として予算措置を検討することも確認された。

以上

議事録署名人

平成19年12月21日 大谷 慎一 印

平成19年12月17日 尾崎由基男 印

【会員の声】

ペーパー検査医の4つの告白

私は大学卒業後、ただちに病理学講座の大学院生となり、卒業後はその教室のスタッフに採用された。大学卒業から数えて6年目に病理専門医、7年目に細胞診専門医となった。病理医として生きていくのであればそれだけあれば十分であるが、市中病院に就職すれば臨床検査の知識もきっと必要になると思い、10年目に臨床検査専門医資格を取得した。しかし今日に至るまで病理学講座に属したままなので、病理以外の臨床検査の実務に携わった経験はまだない。すなわち私はペーパー検査医である。これが本稿の1つ目の告白である。さらに2つ目の告白すると、私は大学を卒業以来、業務として(アルバイトも含めて)生身の患者さんを直接診療したことがただの一度もない。これは私の学生時代の体験が大きく影響している。

話を20数年前に戻すと、元来健康なつもりで私であったが、大学受験を目前に控えた高校3年の12月頃に自らの体調の異変に気づいた。その後は急速に悪化の一途をたどり、1月中旬の共通一次(現在のセンター)試験は何とか乗り切ったものの、2月に

は入院する羽目になった。入院した日の翌日が国立大学の入学願書の受付開始日だった。志望校も当然決めていたし、願書も書き上げていた。しかし主治医の先生に「今の状態で大学に通うのは難しい、受験は許可するが合格しても休学するように」と言い渡された。これは本当に現実なのかと、目の前の光景が全く信じられない思いだった。しかし時間は刻々と過ぎ、立ち止まっている猶予などなく、いろいろな事情を勘案して、その時の自分にとって唯一の選択肢と思われた「自宅から最も近い大学」に身を寄せる決断をした。生きていくためには仕方ないと自分に言い聞かせた。率直に告白しよう。それまで私は医者になりたいなどと思ったことはなかった。これが3つ目の告白である。

高校の卒業式、大学入試、合格発表、入学手続きはいずれも入院中の病院から出向いた。2ヵ月間の入院を経て退院できたのは大学の入学式の2日前だった。その後も病気との付き合いは長く続いた。4度の入院生活、合計すれば1年を超える長期欠席、それ以外の時も日常生活は著しく制限され、はいずり回るようにして6年の課程を乗り切った。思うに任せぬ体を引きずって国試に臨み、試験に自分の病気が出題されているのを見たときは、苦しかった学生生活がフラッシュバックする思いだった。

「長いこと患者体験をしてきたから、きっといいお医者さんになれるよ。」そのように激励してくれる人も少なくなかった。しかし私の結論は違っていた。「もしも等身大の自分が私の患者として目の前に現れたら」と想像してみた。患者さんの苦悩を知り尽くしてしまったら、患者さんを受け止めてあげることなど不可能だと私は思った。患者さんの前に立つことは怖いとすら思った。かくして私は検体検査や画像診断を志向するようになり、中でもいちばん興味を覚えた病理を専門に選んだ。これが4つ目の告白である。もちろん体力的に臨床は務まらないという現実もあった。

幸いなことに卒後は体調が徐々に落ち着き、内科医の妻に言わせると一連の臨床経過は「症例報告もの」だそうである。確かにそうかもしれない。でも根がいい加減なせい、そんな予想外の人生を今は他人事のように楽しんでいる。

今年度から講師に昇任し、学生への講義の機会が一気に増えた。臨床検査の実務に携わっていない分、教育の場においてペーパー検査医資格を何とか生かせないものかと思考し、病理組織学にとらわれ過ぎない、多角的な疾患の見方を伝えられたらと思ひ、検査医学の書物をひも解きながら講義内容を構成するよう心がけている。手前味噌も多分にあるが、学生さんの評判は悪くないようだ。

与えられた状況の中で何とかやっていくことを学んだ学生時代の経験が、ペーパー検査医である自分の生かし場所を見つけることに多少は役立っているかもしれない。

(群馬大学大学院医学系研究科病態病理学分野 横尾 英明)

### 「病理診断科」と「臨床検査科」の標榜科実現に当たって

はじめに： 2007年9月21日の医道審議会診療科名標榜部会で、「病理診断科」と「臨床検査科」の標榜診療科入りが承認された。2008年4月より標榜科は2科まで宣伝可能となり、今後「病理診断科、臨床検査科」、「皮膚科、病理診断科」のようになる予定である。長年にわたって標榜科実現を希望してきた私にとって大きな喜びで、ここまで努力された日本病理学会と日本臨床検査医学会の関係者の長年の努力に敬意を表する。

私の病理歴： 1958年に東北大学第2病理学教室に大学院学生として入局した。1962年に東北大学附属病院に中央検査部が発足し、初代の病理担当当勤医として創設に参画した。中検に4年いたが、他の臨床検査領域の専門医とつきあえたのは幸運だった。1996年に第2病理に戻った。1967年にアメリカ・ウィスコンシン州ミルウォーキー市のセントルークス病院に留学し、病理学レジデントとしてAnatomic Pathology (AP) (2年)、Clinical Pathology (CP) (2年)、Cytology (3月)の研修を行い、1971年10

月に帰国した。助教昇格後、1972年4月に国立仙台病院研究検査科(当時)に科長として赴任した。

国立仙台病院には21年間勤務した。主たる業務はAP(剖検、外科病理学および細胞診)だが、CP(生化学、血液学、細菌学、輸血を含む免疫血清学、一般臨床)および生理検査を含む広義の検査医学の全体を管理する立場だった。この間に日本病理学会、日本臨床検査医学会、日本臨床細胞学会の専門医の資格を取得した。

1993年に国立仙台病院を60歳で退官し、仙台市にある衛生検査所の日本病理研究所に移って15年目になる。ここでの仕事はAPのうちでも外科病理学のみで、剖検およびCPはやっていない。

AP/CP Combined Course について： アメリカで4年間AP/CP Combined Courseの病理学レジデントを経験し帰国した私は、病理学会と臨床病理学会(当時)が協力してAP/CP Combined Courseが実現するものと思っていた。アメリカの医療事情に詳しい人が多かった当時の日本臨床病理学会は、日本病理学会に先駆けてAP/CP Combined Courseを主体とする専門医制度を計画していた。日本病理学会はこれを無視しAP単独の独自の専門医制度を発足させた。この結果を受け、日本臨床病理学会のCP単独の専門医制度が1年後に始まった。残念ながらこの体制は現在も変わっていない。最近ではAPとCPの専門医試験に合格し、両方の資格を持つ人が多数見られるようになった。

今後の問題点： 「病理診断科」と「臨床検査科」の標榜科をどのように実現させるかについては越えなければいけない障壁が多い。12月5日に行われた第11回衛生検査所病理連絡協議会および翌日の第53回日本病理学会秋期総会における病理診断科の討論のなかで、「衛生検査所におけるダンピング問題」が取り上げられた。現在日本における病理学的検査の約70%が衛生検査所で行われているという。大学や大病院に勤務する病理医の中にはダンピング問題を、低価格で診断を行う衛生検査所の病理医のせいにする人がいるが、事態はそんなに単純ではない。APとCPの両者にまたがる構造的な問題として取り上げ、日本病理学会と日本臨床検査医学会が協力して解決していく体制作りが必要だと思う。両方の標榜科が実現した今がそのチャンスである。APおよびCP単独の専門医の外に、希望者に対してAP/CP Combined Courseを導入することを提案する。

(日本病理研究所 並木 恒夫)

### 秋田のリンケン

度々このJACLaP NEWSにも話題になりますが、中央検査部や臨床検査医学のドクターはどんな位置づけなのか、いやむしろどうあるべきなのか、というのは永遠のテーマなのでしょう。学生にも、「リンケンの先生たちって普段何やってるんですか」と随分聞かれますし、知らないドクターには、「リンケンって、研究やるところでしょ」などと言われているうちに、8年目ともなると気にもしなくなりました。しかし専門医が寄り集まって自分たちが何か論じているというのは他の科ではあまり聞きませんから、やはり特殊なことなのでしょう。

自分は医学部卒業すぐ臨床検査医学に入局した、おそらく数少ない検査医の一人で、秋田大学では現在公立横手病院の呼吸器内科にいらっしゃる齋藤先生について二人目でした。入局を決めた時には、内科系の全般に関わるような臨床医で研究もやっておきたい、くらのぼんやりした希望があった気がします。しかし、卒業数年目の段階で内科や呼吸器の研修はしたし、学位は頂いたものの、結局、専門医をとるまでは自分が何者かわかりませんでした。検査医が何を知らなければならないのか、何をなすべきなのかよくわからなかったのですから当然のことですが、レゾンデートル(存在理由)を見いだせない青年よろしく、いつまでもたっても中途半端で不安定な青春時代を過ごした感があります。そういう意味でも、試験自体の内容の濃さという意味でも、臨床検査医専門医試験はいくつか受けた試験の中で最も有意義

なものでした。この場を借りて、専門医試験を運営されている関係各位の皆様にお礼申し上げます。

検査医のレゾナントというの大きなテーマですが、自分たちのこととしてあげさせてもらえれば、横断的な特徴を生かした ICT(インфекションコントロールチーム)や NST(栄養サポートチーム)の活動です。秋田大学では荏原教授の方針もあって、早くから「ICT といえばリンケン」という認知がされていたと思います。数年前におこった MRSA のアウトブレイクを教訓に ICT の権限や人員配置に大幅な見直しながされ、現在では准教授の萱場先生を中心に、内向きだけではなく外部にも発信できる ICT になってきました。

また、学生教育も大事なところかと思えます。私たちは臨床検査と診断学、感染症、免疫・アレルギーの講義など年間 200 時間近くの講義を担当するのに加えて、一班 1 週間・隔週で回ってくる BSL や、3 週間学生が居着くことになる臨床配属があります。教えることは学ぶこと、というのは本当で、自分でも教えているうちに臨床検査に馴染んできたのを実感しています。

荏原教授が赴任されてからこれまで、秋田大学のリンケンには耳鼻科や産婦人科、小児科、小児外科、血液内科の医師が所属しており、臨床検査のカバーする範囲の広さと多様性を示しています。また、医学部卒業後すぐに入局(を表明)した、かわり者(?)も合計 7 人いますが、このドクターたちはそれぞれ皮膚科、精神科、アレルギー・呼吸器内科など思い思いのサブスペシャリティを持つために努力しています。(自分も含め)リンケンのドクターが今後どんな風になっていくのか、楽しみでもある毎日です。

(秋田大学医学部臨床検査医学 植木 重治)

### 検査専門医の今までとこれから

このたび執筆を依頼されたのを機に、以前に本誌「西風東風」欄に寄稿したことを思い起こした。1993 年 12 月の発行で、当時私は富山市民病院の現役勤務を終える直前であったが、それから早くも 14 年を経過した。現在は医師会立の検査センターで、病理診断に常勤し、検査の管理にも携わっている。

この間の医療分野とくに検査領域における変転は大きく、各施設とも生き延び、存続をかけての熱い戦いを続けている。その中で、臨床検査専門医の役割や存在意義が問われ、当の検査医自身も方向性の確定を模索しているのが現状ではなからうか。そこで私なりに 4 つのテーマを選んでみた。

1) 臨床医から日常診療上、有能で頼り甲斐のある存在とされること。

2) 看護師はじめ他職種の医療従事者と息の合った連携活動ができること。

3) 経営者側に検査専門医を軸とした検査部門の存在価値を十分に認識して貰うこと。

4) 地域住民、一般人に臨床検査の重要性や検査従事者の活動について啓蒙すること。

1) に対し：個々の臨床医の求めに間口の広い対応ができること。多様なニーズが殺到するであろうが、複雑に分化した臨床検査領域に職を持つ以上は宿命とも受け止め、対処に意欲を燃やすべきである。それには自身の専門分野、得意とする領域以外のことも一応常識として身につけておかねばならない。つまり「広い Generality の基盤を固めた上に Specialty の塔を建てる」、を心掛けること。

2) に対し：つねに他の職種の人たちの活動ぶりを注視し、こちらから積極的に声をかけて検査専門の立場から力を貸し、その推進に努めること。そして彼等に検査側からの協力が絶対必要との感を抱かせるように。これが有機的なチーム医療の実現に繋がる。

3) に対し：つねに施設全体の動き、とくに経営状態について関心をもち、この中における検査部門の経営的位置づけはどうか、全員が経営感覚を養って、より効率的な業務運営に当たり、実績を上げること。差し当たり BSC などの取り組みが有用であ

り、また質的な向上をアピールする意味でも諸認定の取得、ISO への挑戦も試みたいところである。

4) に対し：一般人は日頃検査の恩恵を受けている筈なのに、意外なほど検査部門の活動を知っていない。臨床検査医、検査技師は積極的に検査室から打って出て患者、被検者に接して検査内容を説明、指導、教育し(検査相談室の開設など)、種々のイベントを企画してふれあいの場をつくり、また IT など諸メディアにより PR するのも有用であろう。

日常診療の現場から、施設の管理者や全スタッフから、さらには地域社会から検査部門が頼りにされ、これを指導する検査専門医が尊重されるであろうシナリオの展開はすぐそこにあると思われる。

大学の研究室を離れ、臨床検査部門に身をおいて病理診断に当るといふ私の生活は 50 年近くも続いて来たが、検査を知って病理があり、病理があつて検査が解る、ことを常に実感している。検査専門医の多くの方たちが内科など臨床科の経歴を有しているか、あるいは病理専門医を兼ねている人が多いと思われる。知らぬ間に身につけている本来の検査医学以外の知識や経験が目に見えぬ助けとなっていることは否めない。

私にとって金沢大学から倉敷中央病院時代を第 1 楽章、富山市民病院時代を第 2 楽章、富山市医師会健康管理センター時代を第 3 楽章と位置づけるならば、間もなく第 4 楽章を迎えることになる。この解き放された終章はどこまで続くか分からないが、楽譜や指揮者なしでどのように演奏を続け、完結させることができるのか、期待と不安に何となく胸がときめくこの頃である。未完成でもよい、その時点、時点における自分の存在意義だけは残して置きたいと願っている。

(富山市医師会健康管理センター 高柳 尹立)

### 【編集後記】

冬の寒さが厳しく感じられる今日この頃であります。雪は、まだ神奈川県では降っておりませんが、そろそろ降りそうな予感がしています。皆様いかがお過ごしでしょうか。最近、インフルエンザも思った程多くない印象であります。

社会では、偽装の多い一年でしたがこれ程偽りが多いものと呆れてしまいました。まだ、考えもしない所から新たに発覚するかもしれません。真実を見極める眼を鍛えていきたいと思えます。

今回で 3 年目となりましたが、医学部の医学原論で 1 年生のスモールグループ(4 名)を 3 週に渡り教えました。今回は「輸血医療と献血」のテーマで 1 回目は私の講義、2 回目は輸血センター部で実習を含め見学、3 回目は献血ルームへの見学という日程で実施しました。医師になる上での良い意味での動機付けを行う意義が大きいのですが、今回の学生は、今までの中で最も理解をしてもらえました。とくに 3 回目のルーム見学では、ルーム内で色々な説明を受けた後に、4 人ともボランティアスピリットを発揮してくれて生まれて初めての献血を行いました。また、2 週間後に今回のまとめで一年生全員でテーマごとの発表会を行ったのですが、私が教えた 4 人はその後も大変頑張って立派に発表しました。更には、発表会の当日に献血までしてきてくれた学生が 1 人いた事を知り、私の伝えたかった事が伝わったと感激しました。

また先日のことですが、大学病院の医事課の職員総勢 100 人近くおりましたか、保険診療の講演会を行いました。かなり反響があったようで、その後声を掛けられる事が事務方から増えた気がします。医事課の味方の医師として考えて頂いたようです。一緒に考えてくれる医師として保険請求ならびに査定対策を進めていきたいと思えます。

今回で 36 回目の編集後記となりましたが、今号で編集主幹の任期満了を無事に迎える事が出来ました。これも一重に多くの先生方のご協力があったからこそと感謝申し上げる次第であります。ありがとうございました。

(編集主幹 北里大学医学部臨床検査診断学 大谷 慎一)